

たまねぎレポート【第408号】



令和3年10月26日

阪南青果株式会社

社内報

9月の天候は、北日本の日本海側で、日照時間はかなり多く降水量は少なかった。東日本の太平洋側と西日本では、日照時間が少なかった。沖縄・奄美では、気温はかなり高く、日照時間はかなり多くなった。10月の気温は前半は高い日が多く、後半は低い日が多い。

気象庁の11月～1月の3か月予報に依ると、平均気温は、西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は低い確率ともに40%。降水量は、北日本と西日本の日本海側で平年並み亦は多い確率ともに40%。西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並み亦は少ない確率ともに40%。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦是雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋

側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦は雨の日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦は雪の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨亦は雪の日が多い。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦は雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨亦は雪の日が多い。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

野菜の概況

建値市場の9月の野菜の販売量は、219,336トン前年比96%(前月比100%)、平均単価はkg ¥263前年比114%(前月比116%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の価格高であった。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比103%、平均単価はkg ¥195前年比114%。東京市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥285前年比114%。名古屋市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg ¥252前年比116%。大阪本場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥268前年比118%。福岡市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg ¥213前年比107%となっている。

建値市場の9月の玉葱の販売量は25,786トンで前年比100%、(前月比101%)、平均単価はkg ¥104前年比133%(前月比105%)。市場別には

バラツキはあるものの総じては、前年並みの入荷で単価高となっている。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は4,404トン前年比104%、平均単価はkg¥86前年比130%。東京市場の販売量は9,767トン前年比101%、平均単価はkg¥109前年比132%。名古屋市場の販売量は5,926トン前年比104%、平均単価はkg¥101前年比134%。大阪本場の販売量は2,962トン前年比77%、平均単価はkg¥116前年比141%。福岡市場の販売量は2,727トン前年比110%、平均単価はkg¥108前年比129%となっている。大阪本場の販売減が目立つ。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の9月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が106,012トン前年比4%増、平年(過去5年平均値)比1%減。平均単価はkg¥160前年比15%高、平年比9%高となっている。曇雨天の長期化で、結球類や果菜類を中心に品薄高となった。販売量が前年比増の品目は、ハウレンソウが前年比42%増、サトイモが24%増、ダイコン・ネギが20%増の9品目。販売量が前年比減の品目は、結球レタスが前年比33%減、ジャガイモが13%減、ナス・キュウリが11%減、トマトが9%減など5品目。価格が前年比高となった品目は結球レタスがkg¥232で前年比134%、ジャガイモがkg¥149で51%高、ハクサイがkg¥118で42%高、トマトがkg¥46で30%高など7品目。ニンジンがkg¥98で前年と同値。前年比安の品目は、キャベツがkg¥81で前年比17%安、ハウレンソウがkg¥76で12%安、ネギがkg¥300で5%安など6品目。タマネギの販売量は前年比13%増、価格はkg¥84で27%高となっている。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷量は、115,662トン前年比96%(前月比98%)。平均単価はkg¥285前年比114%(前月比118%)で前年比、同月比ともに数量減で、価格は前年比、前月比ともに高くなっている。主

要15品目で入荷が前年比増の品目は、ハウレンソウが前年比134%、サトイモが121%、ネギが111%、ニンジンが110%など9品目。入荷が前年比減の品目は、レタスが前年比72%、ナス・パレイショが82%、トマトが84%など6品目。価格は前年比高の品目は、レタスが前年比248%、パレイショが163%、ハクサイが156%など8品目。価格が前年安の品目は、ハウレンソウが前年比87%、キャベツが90%、ネギが94%など7品目となっている。

東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	115,662	95.8	98.1	285	114.2	117.8
た ま ね ぎ	9,767	101.4	91.0	109	132.0	106.9
キ ャ ベ ツ	16,724	108.4	100.1	107	89.5	144.6
レ タ ス	7,117	72.4	77.0	303	242.8	175.1
ば れ い し ょ	6,212	82.3	123.0	193	163.1	119.9
ト マ ト	5,902	84.1	72.0	489	130.9	155.7
に ん じ ん	7,789	110.1	123.1	111	95.6	84.1
は く さ い	8,350	87.1	115.1	150	155.9	182.9
だ い こ ん	8,977	104.9	122.5	109	101.5	131.3
ね ぎ	4,195	110.5	121.5	320	93.8	107.0
か ぼ ち ゃ	2,883	88.7	124.2	159	116.7	102.6
な が い も	827	87.1	93.6	318	87.5	99.1
れ ん こ ん	899	105.2	147.9	492	107.4	107.4
に ん に く	173	79.1	88.7	1,130	122.5	97.0

玉葱の概況

市場の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は9,767トン前年比101%（前月比91%）。不作の北海物の入荷が前年比増となったほか、中国・兵庫物も前年比増となった。主力の北海物の入荷は9,354トン前年比101%、占有率96%で前年比と同じ。中国物は281トン前年比151%、占有率3%で前年比1ポイントアップ。兵庫物は116トン前年比107%、占有率1%で前年比と同じ。産地別の平均単価は、北海物はkg¥109前年比133%。中国物はkg¥95前年比115%。兵庫物はkg¥126前年比85%。となっている。

10月に入り、北海物の入荷が最盛期を迎え、例年卸では活発な売り込みを開始する時期だが、今年はホクレンの相次ぐ生産・出荷数量の下方修正を受けて、価格高と入荷減から様子見的な販売となった。一方、買参人の間では先高感からストック買いの動きが強まり、荷動きは回復傾向となった。月後半の入荷は減少傾向となったが、価格高で荷動き鈍く一部売り残しが発生したものの、先行きの品薄高を予想し、安売りを避け在庫向けを先行した。此処に来て、異常高の影響で荷動きは鈍化しているものの、予想外の入荷減で品不足状態が続いている。来週は更なる入荷減となる予想で、売値の予定が立たず売り辛い毎日である。

10月1日～20日の入荷量は5,871トンで前年比82%、平均単価はkg¥116前年比150%、数量減の単価高となっている。産地別では、北海物の入荷は5,642トン前年比79%、平均単価はkg¥117前年比152%。中国物は200トン前年比172%、平均単価はkg¥96前年比109%。兵庫物は27ト

ン前年比73%、平均単価はkg¥164前年比108%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の9月の玉葱販売量は5,926トン前年比101%（前月比103%）で前年比、前月比とも増となっている。主力は北海物で、販売量は5,682トン前年比108%、占有率96%前年比3ポイントアップ。愛媛物は147トン前年比52%、占有率2%前年比3ポイントダウン。中国物は74トン前年比227%、占有率1%前年比と同じ。総平均単価はkg101前年比134%（前月比103%）で堅調な推移であった。産地別の平均単価は、北海物はkg¥102前年比133%。愛媛物はkg¥54前年比90%。中国物はkg¥86前年比106%となっている。

10月に入り、入荷の銘柄はJA北みらい・美幌が主力で、減少傾向が続いたが、ホクレンでは来週から荷調整を始める。との情報を受け値上げ攻勢が始まると感じた。その後、名古屋市場が全国一安いと言われ、他市場並みの値上げ販売に努めた。現在も入荷減が続き、ランニングストックは皆無の状態、産地では、毎週の出荷要請にも応答がなく、販売計画が立てられず、量販店との商談に苦慮している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は、2,962トン前年比77%（前月比83%）で前年比、前月比ともに大幅減となった。前年比で兵庫物が増加し、北海物が大幅に減少した。入荷減ながら荷動きは今ひとつであった。産地別の販売量は、北海物が2,278トン前年比70%、占有率77%で前年比8ポイントダウン。兵庫物は672トン前年比123%、占有率23%前年比9ポイントアップで、北海物の落ち込みが目立った。総平均単価はkg¥116前年比141%（前月比108%）。数量減の単価高であった。産地別の月間平均単価は、

北海物はkg108で前年比148%。兵庫物はkg¥142で前年比106%。となっている。

10月に入って、兵庫の冷蔵物の入荷は概ね順調で品薄感はなく、中値～下値主力の販売であったが、北海物の入荷は減少の一途で、品薄高が続いている。小売店の多くは北海物に切り替えたこともあり、需給は逼迫傾向となった。月後半は、ホクレンの値上げ要望を受け、卸の追隨値上げで末端の売れ行きが鈍化したが、卸では値下げ販売を避け、在庫に振り向けている。此処に来て、冷蔵産地からも、北海物の上昇相場を眺め、値上げ販売を求められ、強気販売に努めているが、荷動きは今ひとつである。

10月1日～20日の入荷量は2,207トン前年比72%、平均価格はkg¥117前年比150%。前月に続き前年比で入荷減の価格高となっている。産地別では、主力の北海物の入荷は1,837トンで前年比68%、平均価格はkg¥107で前年比157%。兵庫物は364トン前年比97%、平均価格はkg¥166前年比110%。最盛期の北海物の入荷減が目立った。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の8月の玉葱販売量は、2,727トン前年比110%(前月比139%)で、前年比、前月比とも大幅増となっている。北海物が主力で、販売量は2,437トン前年比111%、占有率89%で前年比と同じ。中国物は137トン前年比130%、占有率5%前年比1ポイントアップ。佐賀物は75トン前年比124%、占有率3%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥108前年比129%(前月比96%)で前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥107前年比129%。中国物はkg¥83前年比104%。佐賀物はkg¥128前年比151%。となっている。

10月に入り、月始めは北海物主力に少量の府県産の冷蔵物の入荷で、市

況高ながら品不足感はなかったが、その後、ホクレンの出荷調整が始まるとの情報があり、入荷は減少傾向となり値上げ販売を強いられた。現在も北海物のお荷は少なく、需給はタイトで品薄高が続いている。仲卸には週末からの値上げ販売を予告しながら、欠品の起きない様に集荷に努めている。

10月1日～20日の玉葱の販売量は1,658トン前年比91%、平均単価はkg ¥111前年比145%。前年に比べ数量減の単価高となっている。11月は北海産の寡占化が進み数量確保は、更に厳しくなりそうだ。

10月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷228トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,700～2,600、L大 ¥2,700～2,600、L ¥2,400～2,300、
M ¥1,800～1,700。

【太田市場】 入荷185トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥3,500～3,000、L大 ¥3,200～2,800、L ¥2,400～2,300、
M ¥2,000～1,800。

【名古屋北部市場】 入荷122トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥3,000～2,800、L大 ¥3,000～2,800、L ¥2,500～2,300、
M ¥2,000～1,800。

【大阪本場】 入荷179トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥3,000～2,800、L大 ¥3,200～2,800、L ¥2,700～2,500、
M ¥2,000～1,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,500～1,400、L ¥2,200～1,700、M ¥1,800～1,600。

【福岡市場】 入荷142トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥3,000～2,800、L大 ¥3,000～2,800、L ¥2,600～2,400、

M ¥ 1,900～1,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 2,000～1,800、 L ¥ 2,200～2,100、 M ¥ 2,000～1,900。

供給(産地)の動き

9月から玉葱の供給は北海産の寡占化が進み、多くの市場は北海物一色の販売となった。今年の北海産は7月の記録的な高温・少雨・多照、猛暑に続き8月の中旬は低温・大雨。9月は少雨・記録的な多照の天候不順が続き、近年にない不作となった。府県産は、主力産地が減反傾向にあり、即売物の切り上げが早く、、冷蔵物も全玉連の調べでは20,000トン前後で前年比9%程度の増加となったものの、趨勢値では減少傾向にある。今年の輸入は国際的なコロナ禍で、輸送費の高騰、人手不足等で年内に纏まった数量契約は困難である。当面、需給はタイトで市場では、品不足が深刻化し、産地関係者に先高期待感が強く、産地主導の相場展開が続き、市場相場は日々上昇を続けると予想されている。

府県産地

佐賀では、即売出荷は終了した。生産者の次シーズンに向けて、極早生系の播種も終了した。発芽は良好と言われていたが、その後の雨不足で枯死した苗床も散見される。育苗期に高温に見舞われ苗立ち不良の箇所も目に付く。9月末以後の適期に播種した苗床は順調。現在、マルチ栽培の最盛期を迎え、天候を気にしながらマルチ張りをしている。北海物の高値を横目に、春の市況高を期待している。

兵庫の主力産地淡路島では、冷蔵物の最終入庫は予想をやや下回ったものの、19,000トン前年比109%で、順調な出荷が続いている。市場では北海物の入荷減が続き、市場相場の日々上昇するのを受けて、冷蔵関係者も強気

販売を志向している。産地では、既に次シーズンの播種が終わり、生産者は育苗に専念している。今の処、苗立ちは順調で、一部で極早生の2~3月収穫の定植済の圃場も散見される。現在は少面積だが年毎に増加している。

北海道産地

北海産地では早生系の出荷はほぼ終了し、順次中晩生に移行している。極早生の作柄は平年作で、8~9月の出荷は前進化し、前年並みか上回る出荷となったが、その後収穫が進むにつれて予想外の不作が確定し、産地関係者に先高期待が台頭し、10月からは、出荷の抑制が強まった。ホクレンの10月時点の生産概況予想では、収穫量は608,110トン前年比80%、出荷量は580,950トン前年比79%と報告されている。此の先、冬期を迎え倉入れ作業が始まり、通常出荷の安定期となるが、現在の市場相場は、L大¥3,200~2,800、L¥2,700~2,400の高値水準にあり、北海物の独壇場となっている。市場関係者の多くは引き続き品不足が深刻化し、更なる値上がりで消費の減退を警戒している。近年、ホクレンでは周年販売を目途に4月以降の販売を計画しているが、今シーズンは府県産の早生物とのバトンタッチを早めることが、良策との声もある。

輸入動向

9月の輸入は速報値で18,618トン前年比100%で、いずれの国もコロナウイルス禍で大幅なコスト高に見舞われている。特に、海上運賃の値上がりとコンテナ不足が深刻である。主力の中国は18,189トン前年比99%。アメリカが252トン前年比191%。ニュージーランドが154トン前年比150%となっている。

中国、船賃の上昇、荷役料や内陸輸送費の値上がりのほか、電力不足で資材も値上がりし、国内市場では野菜全般に高値が続いている。更に、日本向けの主力産地である甘粛省では、コロナの感染で出荷が停滞している。現在、日

本向けオファ価格も値上がりし、剥き玉20kg・C&F・\$10.80～11.00。皮付き\$9.00の高値になっている。

アメリカ、前月に報告した通り、今年の貯蔵用玉葱の作柄は、北海道と同様に不作で、国内マーケットが堅調な上に、コロナ禍の影響で輸送費が高騰、人手不足で荷役が停滞。コンテナ不足が深刻化し、船積みが停滞している。現在の価格は50㍍・C&F・Jサイズ\$25.00、SJサイズ\$24.50の高値だが直積は困難の状態。

ニュージーランド、今シーズンの播種は終了し、初期生育は順調とのこと。出荷は年明けになるが、コロナ禍が収束しない限り、海上運賃、人件費、出荷資材の値上がりに加えて、アメリカ同様空コンテナの不足等で輸出環境は厳しいと見ている。

11月の市況見通し

現在の玉葱の市場相場は、希有の高値となっているが、北海物の出荷の最盛期の高値は過去に例を見ない。過去の高値は、北海物と府県物のバトンタッチとなる3～4月の端境期であった。今年の北海物は不作に違いないが、近年、栽培技術が向上し、今年の平均反収は4.8トンと予想され、過去の豊作年に近い水準である。昔から「野菜の相場は青天井」と言われて、天井知らずの異常高となることがあるが「長続きはしない」とも言われている。異常高になると消費が落ち込むことや、後続産地の前倒し出荷に加え、輸入が増えることで、需給バランスが改善されるからである。しかし、今年は世界的なコロナ禍の影響で、輸入が尠ならず、当面は異常高が続くと見ている。北海物は寡占化が進み、ホクレン頼みになっており、市況の価格動向はホクレンの手中にあり、外部からの予測は困難である。既に一部の市場では、L大¥3,700の高値が発

生していると聞く。私の私見では、かなりの市場格差はあるものの11月の拠点
市場の相場は、北海物20kg・L大 ¥3,500~3,000、L ¥3,000~2,50
0で推移すると予想している。(了) 笹野敏和記